

(様式1)

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有:管理者・スタッフ全員でBS法で意見を出し合い作成しました。</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを 支えていくサービスとして、事業所独自の理念 をつくりあげている	いつも明るく利用者様の尊厳を大切にし一日一日 を楽しく穏やかに、住み慣れたコノ志布志の地で 暮らせるよう支援して行きます。	○	開設して10ヶ月、ホーム内で全てのこ とに精一杯頑張りました。これからは、 地域へ目を向ける事を目標にします。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践 に向けて日々取り組んでいる	一日の仕事始めに”理念”を唱和する事で意識を 高める。	○	日々のケアが理念に反映されているか、 スタッフ全員、振り返る時間をつくる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続ける ことを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に 理解してもらえよう取り組んでいる	御家族の面会時、職場の理念を説明しリビングに 掲げています。	○	町内、近隣者の集まりに参加し理念をわ かりやすく説明していきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をか け合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような 日常的なつきあいができるように努めている	買い物・散歩・毎日の挨拶・会話を持つよう心が けています。ホームの近隣の方へは立ち寄って頂 くよう声掛けを行っています。	○	近所の方がホームに足を運んで下さるよ う呼びかけを多くする。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員とし て、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加 し、地元の人々と交流することに努めている	地区自治会長さんへ、行事等の計画を教えて頂き 交流を御願ひしています。(運動会等々) 家庭 菜園の野菜やその他種々の差し入れして頂いてい ます。	○	地域行事(幼稚園・学校・老人会)に出 来る限り参加を増やしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	医療法人松風会全体の内覧会・退院後受診された患者様にグループホームを案内・見学して頂いています。又、在宅で認知症介護されている方の相談に随意応じています。	○  介護予防・認知症の研修参加を1人でも多く増やしたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価ガイドブックを全職員が読み、評価の意義を理解し、又他の施設の方達の意見を聞くことにしています。(全スタッフで取り組んでいます。)	○  評価のねらい・意義を十分理解し質の確保・向上を図る。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者へ経過状況を報告し社会全体の介護保険制度について話し合いました。努力項目とその結果を報告し、出席者から積極的な質問、忌憚のない意見を頂いています。	○  これからも、行政参加者からの意見を沢山頂きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議日を早めに連絡し、市職員（介護保険課）看護師、保健師さん達にも出席して頂いています。	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護研修に参加し、福祉関係者と連携を取っています。	○  制度の理解不足がある。勉強会をつくりたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会（於アピア：志布志町）に参加してスタッフの研修報告・意見交換を行いました。	○  虐待防止関係の研修があれば参加したい。日頃のケアの中でも虐待が行われていないか、振り返る。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に御家族様へ十分理解して頂くよう管理者・各ユニット責任者・事務局が同席し契約を行っています。医療連携体制についても詳しく説明し同意を頂いています。	○	トラブルが無いよう十分説明していく
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に苦情受け付け箱を設置していますが、常日頃から意見を受け入れやすい人間関係を作っています。	○	意見・苦情は大切に受け止め速やかに改善策を検討したい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時又は担当者会議等に参加して頂き状況説明し経過記録に目を通して頂きます。遠方の御家族へは電話、郵送で報告しています。	○	家族へ定期的に現状報告（受け持ちスタッフより）を行っていききたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時又は担当者会議等に意見・不満・苦情・要望を伺っています。	○	家族会を発足させたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	「勉強会」という形を取り運営関係・社会問題に話し合った責任者が個別面談を行い意見を聞いています。	○	定期的にミーティング・勉強会を増やしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	7人の常勤職員がいます。電話連絡するとパート可能な人を確保しています。又管理者は常時24時間施設内に待機しています。	○	夜間帯に異常が発生したら、管理者・責任者へ報告し応援体制をとっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者・御家族様への信頼関係を築く為ユニット間のスタッフ異動は原則として行っていません。新しいスタッフが入る場合は細心の注意を払っています。	○	新しいスタッフがわからない時があったら利用者様に聞くように心掛けています。
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会に参加しています。(鹿屋市・大隅町・鹿児島市・福岡市)	○	参加者はスタッフ全体に報告する。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社協・グループホーム協議会・老人保健施設(ありあけ苑)・特別養護老人ホーム(賀寿園)・支援事業所(有明病院)と交流を行っています。	○	他施設を一つでも多く見学し交流を持ちたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフの意見を十分聞くようにしています。日頃、話し易い、相談し易い雰囲気作りに努めています。又、スタッフ全員が集う月1回のカンファレンスで話し合える時間を設けています。	○	スタッフ同士の人間関係を大切にしたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の努力によって、良い成果が得られたら評価してあげます。	○	職員の個別面談を行い、悩みなどないかを把握し職員が向上心を持てるような労働環境努める
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	アセスメントには十分な時間を取り信頼関係作りに努め出来る限り多くの情報を得る。	○	面談知識を勉強して行く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御本人・御家族が困っている事、求めている事を十分話し合っています。	○	その時点で何が一番必要か、何を求めているのかを見極める力を付けたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その状況に応じ十分な話し合いを行い、取り急ぎ初期の対応をして緊急性がないかを確認しています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所相談には十分な話し合いに時間をとり体験入所という形で様子を観察後正式入所して頂いています。入所初めは利用者様に安心して頂く為、御家族様の協力を御願ひしています。	○	入所が適切であるか、振り返る時間をとる。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で御利用者様を深く知り共有する時間を少しでも沢山持つようにしています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事等を通じて又変化時にはきめ細かく伝えていきます。日頃御家族との関係作りに努力しています。	○	利用者様を共に支えているという姿勢を示し家族の思いを少しでも受け止める。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	細かく利用者様の状況を説明し御家族に理解して頂くよう努力しています。	○	時には外泊し家族と共に過ごす時間を御願ひしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「ふるさと訪問」「お墓参り」「子供さんの家訪問」をしています。	○	御家族の協力を得て外泊を御願いたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	GW・食事・ドライブ・散歩等の中で御利用者様同士の交流を作り、助け合っています。(車椅子を押して下さる、etc.)	○	利用者同士の助け合いの調整に努める。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホームから病院へ入院された方が1人いらっしゃいましたが、その際スタッフが御見舞いに伺い顔をだして、お話ししたり相談に応じています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人・個人の言動に応じている。表情の険しいとき、穏やかな時の様子を注意深く観察しています。	○	意思疎通の困難な方に対しては沢山の方(家族・スタッフ・面会者)の意見・話を伺うようにしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人1人時間をかけて話を聞いています。自宅訪問したり御家族に生活履歴等を聞いています。	○	利用者様を囲む方の1人でも多くの方から情報を聞くことに努める
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	出来ること、出来ない事を確認し有する能力を最大限に引き出す。	○	細かい行動、発する言葉を記録に残す。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月一回スタッフ全員でカンファレンスを行いケアの実施評価を見直して決定事項を計画しています。	○	このまま継続しパーソンセンタードケアを実行する。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアマネ、スタッフと共に話し合い、状況に応じて見直ししています。	○	計画期間中であっても、変化した際見直しを行っている。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、計画に沿ったケア項目(vital、食事、排泄、入浴 etc.) チェックしています。又ケース経過記録も行っています。	○	スタッフ間の情報共有の徹底をする。
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同敷地内に医院(外科・内科・皮膚科・リハビリ科)で定期受診を行っています。	○	K Pへ状況報告する。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練にて消防指導を受けました。ボランティアの慰問も何回かありました。	○	ボランティアの幅を拡げたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	実施していません。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	在宅での生活が不可能となりグループホーム利用を希望される相談がありましたが、グループホームを利用する為の介護度が満たず再度認定調査を申請しました。その時、地域包括センターの方と情報交換しました。	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的又は必要時、同敷地内にある医院受診をオンコールNRと受け持ちスタッフで付き添いを行っています。	○ 家族（K P）への状況報告を行っている。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医は認定審査会のメンバーです。	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師・有資格者（オンコールNRを含む）3名います。同敷地内の医院NR共密に連絡を取り合っています。	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	今まで1人の御利用者様が脳梗塞で入院となりました。入院計画では早期の退院予定でしたが、退院直前に大腿骨骨折され現在もまだ入院中です。	○ スタッフが時々御見舞いに行っている。又御家族へも状態を伺っている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に延命治療を望まれるかを十分話し合うようにしています。最期を病院希望か、ホーム希望かの確認を取っています。医療連携実施中。	○ 時折に確認していきたい。リビングウィルについて勉強中です。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来る限り側にいる時間を作りました。苦痛緩和、不安を和らげて差し上げるよう努めました。緊急時医者への連絡体制は取っています。	○ ターミナルケアについて、研修に参加した。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者 間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替 えによるダメージを防ぐことに努めている	他の施設より1人入所された方の情報提供を頂き ました。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない	個人ファイルは本人・御家族・官庁以外は開示し ていません。ホーム内の写真、ネーム等は同意を 得ています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけた り、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決 めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる	何事にも、利用者様の意志を優先し自己決定出来 ない場合は時間をかけて話をします。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切にし、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている	利用者様の意志決定を重視し一日の流れはありま すが、その時のその時の個人のペースに合わせて 過ごして頂く。	○	その人らしい過ごし方を尊重する。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援し、理容・美容は本人の望む店に行け るように努めている	本人の希望される理髪店へ電話連絡し予約を入れ てスタッフが付き添って行く。入居者様の御希望 でスタッフが散髪するときもあります。洋服等は 本人の意志・好みを尊重しています。		外出や施設内の催し物が開催される時 に、女性は薄化粧をする。(希望者) 外 出時は、各人の好みの帽子、日傘など使 用しチョットしたオシャレを楽しんでい る。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの 好みや力を活かしながら、利用者職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と共に買い物、準備、食事作り、味見、 アドバイスを頂きながら作っています。毎回、殆 ど全量摂取されています。	○	野菜・果物は現物を調理する前に手に触 れて頂き、名前・季節感を味わって頂い ている。。片づけは良くして下さい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望時は、煙草・お酒を取り入れています。誕生日は希望のメニューを作っています。外食・出勤も時折実施しています。	○	煙草を吸われる時は換気と火の始末の安全確認を行っている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	夜間オムツを使用している方も日中はトイレ誘導を行っています。尿器使用の方は定時に廃棄し洗浄しています。毎朝トイレに座って頂き腹部マッサージを実施しています。	○	排泄パターンを把握する。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の意思確認を行いその方の体調等に応じた御世話をしています。	○	気持ちよく入浴して頂けない利用者様があり検討中です。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて出来るだけ日中は行動・活動して頂き生活のリズムを作っています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一日の中で出来ること、役割を持って頂きメリハリのある生活を心がけています。ドライブや散歩などの外出は好まれるので少しでも多く実現できるようにしています。	○	植物（ひまわり）の管理、天気予報・新聞折り、片づけetc. を実施しています。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物は希望者はスタッフと一緒にしています。出納帳に記帳し御家族に確認を貰っています。	○	事務室・ユニット・利用者様が管理を行っています。


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、ドライブ、自宅訪問、墓参りを実施しています。また、春には香月小学校の桜の花をみに行きました。	○	海公園へお弁当を持って外出したいです。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見に行きました。日曜日、天気の良い日は外出日としています。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内に公衆電話、各居室に電話設置してあり希望時はダイヤルを回し話して頂いています。外部からの電話も各居室につなげます。	○	家族との交流を増やしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時はその時々でリビングか居室で話して頂いています。時間の許す限りお話しできる雰囲気作りに心掛けています。飲み物・お菓子・食事を出します。	○	訪問時、居室かリビングを利用して頂いている。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていません。	○	申し送り等で拘束を行っていないか、確認する。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵はついています、かけていません。	○	行動範囲を把握する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、 昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全 に配慮している	全員の様子を把握し物音がしたら駆けつけます。	○	夜間帯は細かな巡視を行っています。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではな く、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取 り組みをしている	洗剤・刃物・漂白剤等（危険物）は目の届かない 所で保管しています。	○	全てを取り除くことなく利用者様の状況 判断を正確にする。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ ための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた 事故防止に取り組んでいる	ADLレベル及び一日の行動状況を把握し常に所在 位置を確認する。転倒の危険性の高い人は支えら れる位置で見守りします。煙草を吸われる人は、 吸い終わりを確認します。投薬は個々の薬入れを 作り薬包紙に名前を記入しています。	○	ヒヤリ事故報告ノートを作り全職員に伝 達しています。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職 員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っ ている	緊急連絡網を作成しています。日頃、看護師の指 導・助言・意見を受け入れています。	○	救急時の訓練を実施したい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わ ず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろ より地域の人々の協力を得られるよう働きかけ ている	避難訓練を年3回実施しています。	○	車椅子御利用の避難訓練を検討中。既存 の災害マニュアルを現行に即した形に検 討中。（← 病院時代にウチはマニュアル を作成していたのでは？）
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族 等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした 対応策を話し合っている	面会時・担当者会議などに説明しています。状態 変動時には、即御家族へ連絡しています。	○	危険予知能力を身につける。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃から状況を把握するよう努めています。異変を発見したら、即管理者・責任者へ報告し対応しています。	○ 個々の病歴・食欲・顔色・体重・vital signを把握しておく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	オンコールNRより指導・助言を受けています。	○ 薬の目的・用法・用量・副作用を把握し状況の変化を早期に発見し、DRへ報告し対応する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝「きなこ牛乳」を飲んで頂く。トイレに座って腹部マッサージをしています。適度な運動・繊維質の食べ物を取り入れるようにしています。	○ 排泄チェック表を作成し記録している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後のうがい・歯磨きを行っています。	○ GW時に口輪筋の機能訓練・嚥下体操を行っています。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人・個人の嗜好を把握し、食べる量を見極めて支援しています。水分摂取については何時でも飲めるようにリビングテーブルにウォータージャグを置いています。必要時は水分摂取量のチェックを行っています。	○ 毎食の摂取量の記録を行っている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザは御本人・御家族の同意を得て予防接種を受けています。疥癬の疑いのあった方がいましたが皮膚科受診しDRの指示を頂き、毎日の入浴・衣服の消毒・軟膏塗布を実施しました。	○ インフルエンザ・ノロウイルス等の流行の情報が有れば、即予防策をとっている。各感染症のマニュアル作りに取り組む。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所が不衛生にならないよう、日頃から清潔維持に心掛けています。その対策として定期的にまな板・布巾を消毒します。賞味期限に注意し、購入時には日付を記載しています。また、調理師免許を持った者のアドバイスを受けています。	○	毎日掃除を実行する。定期的に消毒する。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	観葉植物を置いています。入り口横に座れるスペースを設けています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁や黒板に写真や季節の絵を描き明るい雰囲気作りに心掛けています。又、浴室・トイレは毎日清掃を行い、廊下にはソファを置きお互いが談話しやすい環境を提供しています。	○	リビングに季節感を表すよう工夫している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下・ベランダに椅子を置き外を眺めたり利用者様同士が話せるようにしています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族の写真を飾ったり使いやすいタンス等を設置しています。ベッドサイドに籠を置き、ちり紙・飲み物を置いています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者様が居室を離れた際、毎日必ず換気をしています。（衛生上）空調には声掛けを行い状況に応じて使用しています。	○	空調機の定期的清掃を続行する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	車椅子使用者の行動範囲に障害物がないようにし ています。廊下に手摺りを設置し、階段入り口・ 降り口には安全バーを付けています。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	部屋のドアに果物印を付け、各部屋が判るよう に工夫しています。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	ベランダに各自御自分の花を鉢に植え水やりな どの御世話を利用者様に御願ひしています。ベ ランダで食事会などもします。	○ ベランダ近くに日光浴が出来る椅子を設 置している。庭先に季節の花を植えてい る。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	② ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	② ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない

項 目		回答
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	② ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	② ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	② ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	① ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	② ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

同敷地内に”長期かかりつけ医”の医院があります。スタッフに看護師の有資格者(含:オンコールNr)が3名います。私たちは仕事始めに、朝・昼・晩に理念を唱和し理念の意義を高め仕事に従事しています。開設して早11ヶ月利用者様を受け持ち制にし、毎月スタッフ全員でカンファレンスを行い、モニタリング・評価・ケアが適切であったか、振り返る時間をつくりケアに活かせるよう努力しています。スタッフ間の関係も良く元気があり1人1人認知症に対して向上心を持ち日々のケアに取り組んでいます。

”利用者様の生活面について” 食事に対しては御利用者様の家族・地域の方々・職員から食材(家庭菜園でつくった野菜等々)を提供して頂く機会が多く、季節を感じる食材に恵まれています。スタッフに病院の給食室で長年勤務していた調理師の有資格者が試行錯誤しながら力を入れている、高血圧・DM・便秘・心疾患、etc.に対して効果を出してきつつあります。1人1人の状況、嗜好、適量バランスを見極めた食事を提供出来るよう取り組んでいます。「排泄面」では、利用者様の尊厳を守り、オムツ使用も昼間はトイレに座って頂き、少しでも気持ちよく排泄して頂けるようにしています。「機能訓練(リハビリ器機を使用して)」にも力を入れており、個々にあったケアを目標にその方の背景・生活歴を深く知り、ADL・QOLの低下にならぬよう、有する能力を最大限に引き出すケアプランをたてています。我々は、未熟ではありますが理念に基づき「一日一日を楽しく・穏やかに」をモットーにケアに取り組んでいます。そして、職員は入居者様を御世話させて頂く時、「共に生活している・共に歩ませて頂いている」という気持ちで日々過ごすよう心掛けています。